



野庭すずかけ小だより

5月号

横浜市立野庭すずかけ小学校
2026(令和8)年4月30日
TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nobasuzukake/>

見慣れているのに、まったく ちがう風景 一回り分の+
校長 船山 道太

春は、いろとりどりに花が咲き、じっくり眺めてみると、とっても華やかになったことに気づきます。気温は上がり、木の枝先には、小さな詰まったたくさんの葉っぱ。この間までは、枯草の茶色と土色だった地面に、草たちは緑色をいっきに増して、いのちの新たなサイクルを回している。今年も藤は紫色にきれいに咲いてクマバチを呼んでいる。蜜柑はアゲハを呼んでいた。いったいどこで、秋冬を過ごしていたのだろう。こうして今年の春も顔を出してくれて、ありがとう。

校庭の藤に集まるクマバチを、子どもたちは今年もすいすいとよけて進んでいった。しかし、逃げ場の少ない狭いところに、高さ1m50cmあたりでじっとしていられると、さすがの子どもたちも怖がった。

学校の主人公の子どもたち。

すずかけ応援隊の地域ボランティアの皆様が、1年生のサポートのため、朝と給食の時間に毎日来てくださる。「落ち着いているわ」「すわっていられるの」「かしこい」「あいさつもできる」「人懐っこい」「心が洗われる」「ここにくると癒される」、そんな言葉が聞かれた。未熟だけど、完璧な存在とは、こんなことをいうのかな。

2年生は、まだ自分たちのことで精一杯なのがいい。もともと明るく、元気な子どもたち。1年生を意識している子もいるでしょう。表情はお兄さん、お姉さんになってます。

3年生は、だれかが困っているとあたかも全員で助けにいくぐらい助け合いに勢いがある。「ますます よくしていこう」という気持ちか、かたちとなって表れている。

4年生は、とにかく一生懸命。すごく元気。まずは当番の活動でみんなの役に立っている。これから、どんな役割があるのか待ち遠しいようす。気が利く、あっちをカバー、こっちをカバーできてしまうってすごい。

5年生は、委員会に所属して、常時活動が始まった。どの委員会に所属するか、はじめてのお仕事はうまくできるだろうかと緊張しているところがすばらしい。校内放送でアナウンスする声が聞こえてくる、給食の受け渡し、調理員さんを助ける姿が頼もしい。私の見ていないところでもたぶん活躍しているのだろう。そういう子どもたちだ。ありがとう。

6年生は、最上級生としての振る舞いをすでに地でいっている。いばっちゃんない。親切で優しい感じがあふれる。下級生のちょっと気になる言動にも寛容だ。周りのためにとにかく動く。自分のことも大事にしてくださいよ。

個別級ではサクランボの木の観察をしている。前は緑色だった実が赤くなっていることに気づく。崖をよじ登って、サクランボを採ろうとした1年生の手をとってあげる2年生。下りるときも手をかしてあげているようすに、先生たちの目も赤くなる。

キッズ門に立った日、そこを通る全員が、私にあいさつをくれた。一人ひとりあいさつを返す。通り過ぎた後に返すことも。何かをさえぎってしまうようすに進んではあいさつをしない私に、子どもたちはあまり考えすぎるなど…。幸せに一日のスタートを切れた。明るく、かるく、この調子で5月を過ごす。

今年の繰り言を最後に。みんな早く寝て、たくさん寝て、からだの脳をしっかり育ててあげましょう。毎月の学校だよりを楽しみにして下さり、感謝しています。